

# ゴビンダ通信

No52

発行：無実のゴビンダさんを支える会  
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

September 27, 2012

## 再審初公判は10月29日！無罪判決、年内にも！

帰国後のゴビンダさんが、FAXで英文の手紙を送ってきてくれました。

支援者のみなさん、ナマステ！

無実のゴビンダです。

ネパールに帰ってから3ヶ月がたちました。日本ですごした18年間のうち、逮捕されてからの15年間は、私にとって、言葉にできないほど、苦しい時期でした。この先どうなってしまいかかわからない、あんな「人生の暗黒時代」は、もうあまり思い出したくありません。

**"A friend in need is a friend indeed."** (まさかの時の友こそ真の友)という諺があります。みなさんは、私にとって、まさしく、この「真の友」です！みなさんは、私がもっとも苦しんでいた時、大きな愛で私を支え、私の味方になって正義のために闘ってくださいました。みなさんは歴史を創りました！みなさんのおかげで、私も歴史を創ることができたのです！

みなさんのお力で、私は愛する家族のもとに帰ることができました。帰国後しばらくは、こちらの生活に慣れるため苦労しましたが、家族の理解や思いやりのおかげで、少しずつ落ち着きました。私の心には、まだストレスや怒りが残っています。でも、こんな良い状態で自分の家に帰れたこと、今後の裁判の見通しも明るいことを思えば、きっと短期間で回復することができるでしょう。家族のみんなが私の回復を助けてくれていますし、自分自身でも、ヨガやいろいろな健康法を試すなど、いろいろ努力しています。

今、私は、東京高裁の無罪判決を待ちわびています。早ければ年内にも判決が出るかもしれないと聞いています。あと数ヶ月の間、どうぞ引き続き、ご支援をお願いします。みなさんがいらっしゃらなければ、今、こんな良い状態で、ここにいることは出来なかったでしょうし、もしかしたら生きてさえいなかったかもしれません。

みなさんの献身的なご支援を、私も家族も、生涯、忘れません。

私の勝利は、みなさんの勝利でもあります！

無実のゴビンダ・プラサド・マイナリ

2012年9月21日 カトマンズ自宅にて

## カトマンズのゴビンダさん 帰国から2ヶ月のマイナリ家を訪ねて

渡辺 亮 (会員)

6月7日の再審開始決定から15日には帰国と、あわただしく日本を後にしたゴビンダさん。私たち支援者にとっても、あれよあれよの出来事でした。15年もの長い冤罪の苦しみからようやく解放されたゴビンダさん、帰国直後はマスコミの取材やお祝いに駆けつけてくれた親族や知人などへの対応もひっきりなしだったようです。

私が訪ねたのは、それから約2ヶ月経った8月中旬。落ち着きと静かな生活を、徐々に取り戻し始めている様子でした。



自宅でくつろぐゴビンダさん。ラダさんの顔にも、ようやく安らぎの表情が。

ネパールの首都カトマンズは、狭い盆地に500万人の人たちが暮らす活気に満ちた都市です。マイナリ家は、空港から車で20分程度の住宅街に位置しています。日本では個人の住宅で3階建てというのは珍しいですが、こちらでは3階、4階などがごく普通。マンションを目にしない代わりに、こうした家に、複数世帯が住んでいるようです。マイナリ家も3階がゴビンダさん一家の住居。1階と2階を別の家族に貸しています。ゴビ

ンダさんの仕送りで建てたこの家があったから、彼が獄中に捕らえられていた間も、家賃収入でラダさんや娘さんたちが生活することができた、彼の頑張りの結晶です。屋上に上がって周囲を見渡すと、カトマンズの市街がほぼ一望できます。

滞在中、市内や近郊の観光地をいくつも案内してもらいました。ストゥーパと呼ばれる大きな仏塔を中心にした広場がいくつかあり、私たちが支える会のシンボルにも使ってきた「仏陀の目」も大きく描かれていました。そんな広場の小さな喫茶店でお茶を飲みながら、とりとめのない四方山話を繰り広げました。でも、いつしか話題は日本での再審裁判のことに。自分では出廷できないだけに、裁判がどのように行われるのか、いつ頃結論が出るのか、当然ながら気になるようです。

「再審開始決定から釈放や検察の異議棄却などは、異例な程のスピードで進んだから、再審の判決も早く出るのではないかと思う。裁判所は私が無実だと分かってくれたと思う」と期待を語りますが、同時に検察がいまだに有罪を主張していることには怒りを隠しません。

「検察は証拠を隠していたのだから、それを反省して欲しい。証拠を隠されたおかげでひどい目にあう人は、私が最後にして欲しい」と語っていました。

市内観光には、ラダさんも一緒に行きました。ゴビンダさんとラダさんは、手をつないだり肩を組んで、とても仲の良いところを見せつけてくれました。「18年も間が空いたから、まだまだ新婚気分だね」と冷やかすと、「そうですね」と軽くかわされてしまいました。市の中心部にある大きなスーパーで買い物をしました。メモを見ながら日用品を籠に入れていく仲の良い二人の姿を見て、ようやくこういう日常が戻ってきたんだな、と感無量でした。

獄中では不眠症になり、睡眠導入剤を使用していたこともあります。帰国後はよく眠れるようになった、とも言っています。しかし同時に、今でも時々嫌なことをいろいろ思い出してしまい、眠れなくなることもあるとのこと。

「自分は何も悪いことしていないのに、長い間刑務所に入れられたから、同じように冤罪で苦しんでいる人の気持ちがよくわかる。これからは、何とかそういう人たちの役にたつようなことをしていきたい」と真剣に語るゴビンダさんですが、そのためにも、一日も早く裁判で無罪が確定してこそ、本当に彼の新しい人生が再出発できるのだと改めて思いました。



9月28日発売の雑誌『冤罪File』第17号に、寄稿しました。詳しくはそちらもお読み下さい。

## 再審初公判にいたる経緯と当日の行動について

6月7日、東京高裁第四刑事部（小川正持裁判長）の再審開始決定に対して、検察は不当にも異議を申し立てましたが、7月31日、第五刑事部（八木正一裁判長）に異議を棄却され、最高裁への特別抗告を自ら断念。これにより、原決定からわずか2ヶ月という異例の早さで、8月7日、再審開始が正式に確定しました。

いよいよ来たる10月29日、再審の第1回公判が東京高裁で開かれます。当日午前9時から「支える会」は国民救援会と協力して裁判所前で宣伝とビラまきを行います。傍聴券抽選は相当倍率が高いことが予想されるため、実際に傍聴に入れるのは少人数だろうと思われれます。そこで、せっかく朝から裁判所前まで来たのに傍聴に入れなかったという支援者の方々のために、下記のとおり「初公判報告集会」を行います。ぜひご参加ください。

### 10・29再審初公判 傍聴一報告集会 無実のゴビンダさんに、1日も早く無罪判決を！

日時 2012年10月29日(月)13:30～（開場13:00）

場所 貸会議室「オカモトヤ」第1ビル4階（虎ノ門交差点すぐ）

ゴビンダ弁護団からの報告／佃克彦弁護士

ゴビンダさんからのメッセージ

「支える会」からの報告と今後の活動方針

\* 地図・詳細は、同封のチラシをご覧ください。

### □□□ 事務局からのお知らせ

▼事務局会議： 次回10月10日(水)午後6～8時現代人文社にて。従来、毎月第2木曜日を定例としていましたが、請求審の進展に対応するため、予定を変更して臨時会議を開催する場合があります。随時、ML(メーリングリスト)にてお知らせしていますが、MLに加入していない方は、恐れ入りますが、個人的にメールや電話にてお問い合わせください。

▼カンパのお願い： 帰国後もゴビンダさんが家族との平穏な生活を維持するためには、引き続きサポートが必要です。みなさまの温かいご理解とご協力をお願いいたします。

▼再審開始要請署名へのお礼： 高裁第五刑事部宛の署名(個人290筆+団体24筆)をいただきましたが、異議審が予想より早く終結したため提出する機会がありませんでした。支援活動の貴重な記録とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

▼帰国したゴビンダさんに激励の手紙を書いてくださる場合は、「支える会」事務局宛にお送りください。後日、託送の機会などがあれば、まとめてゴビンダさん届けることができます。

無実のゴビンダさんを支える会 事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10 八ッ橋ビル7階 現代人文社気付 TEL: 080-6550-4669

e-mail: govinda@jca.apc.org ホームページ <http://www.jca.apc.org/govinda>